

もし、乳がんと診断されたら・・・？

乳がんの診断のための検査

乳がんの診断は、視触診・マンモグラフィ・乳腺エコー・細胞診検査で行います。

Q. 細胞診検査って？

細胞診検査は、しこりや病変に細い針を刺し直接細胞をとる検査です。針の太さは採血検査と同じ太さの細い針で行うので痛みも少なく局所麻酔も必要ありません。この検査ではしこりや病変が、良性か悪性（乳がん）かの診断ができます。

乳がんの診断をされたら・・・

●治療方針を決めるために、もう少し詳しい検査を行います

①乳がんの大きさや、乳がんが転移しやすい脇の下のリンパ節への転移の有無を見て、乳がんのステージを評価します。

②乳がんの性質を調べるために、組織診検査を行います。

Q. 組織診検査って？

組織診検査は、乳房に局所麻酔をして、しこりや病変に太い針を刺し直接組織をとる検査です。この検査ではしこりや病変部が、良性か悪性（乳がん）かの診断ができます。乳がんだった場合、がんが女性ホルモンと関係があるのかどうか、またがんの活発度も調べます。乳がんの性質を調べて、今後の治療方針を相談していきます

③手術の方法を決めるために、MRI検査を行います。

Q. MRI検査って？

MRI検査は、乳がんの大きさや範囲を調べます。また、他にもしこりが無いかチェックします。MRI検査結果を参考にして、乳房温存術が適応になるかの判断をします。

・MRI検査は岸和田市民病院で行います。

●医師・看護師とよく話し合い、治療方針を決めます

乳がんの治療方針を決めるために、医師や看護師と十分に話し合いをします。

手術の方法を決定するにも、温存術か全摘術か、または乳房再建を行うかなど色々なことを考えなくてはなりません。医師や看護師とともに、患者さんそれぞれの価値観にあった治療方法を一緒に考えていきましょう。

乳腺ケア泉州クリニックでは、大切なお話や相談をゆっくり行うための特別診療時間枠を設けております。ご家族や大切な方とお越し下さい。